

# 市営駐車場の有効活用について

小原 忠夫議員

・質問 羽生市は、財政危機を乗り切るために様々な改革に取り組んでいるが、今後はより一層の財源確保が課題となってくる。

そこで、市営駐車場について、次の四点を伺う。

市内に設置されている市営駐車場の利用状況及び収入額

西羽生駅前駐車場の利用率を上げる方策。

二ヶ所ある無料駐車場の理由、有料化に対する検討。

羽生駅東口整備、西羽生駅前広場の将来計画と市営駐車場の兼ね合いについて。

・答弁(企画財政部長)

現在、四ヶ所の駐車場を

管理運営しており、平成十七年度の利用状況と収入額は、第一駐車場が二十五台無料、第二駐車場が六台無料、第三駐車場が百七十五台中百五十二台の利用で、年間九百三十六万円の収入となっている。

西羽生駅前駐車場は十七台中三台の利用で年間二十四万円の収入となっている。

西羽生駅前駐車場は、駅階段の直近にあるが、近くの民間駐車場の方が、市より低額なため、利用率が低い。今後、使用料金の引下げ等について



市営西羽生駅前駐車場

検討していきたい。

無料駐車場は、地元商店街の買い物客の利便性向上のため設置をした。有料化については、地元商店街や関係団体との十分な話し合いをし、対応を検討していきたい。

羽生駅東口は、交通の安全性の確保からも整備が急がれるが、平成十九年度に暫定的な駅前広場の整備を考えている。当面は、既存の東口市営駐車場は引き続き利用していきたい。

また、西羽生駅前広場は、現在の状況から、既設の駅前道路の利用で十分対応できるため、今後も駐車場としての利用を続けていきたい。

# 財政について

大貫 慶議員

・質問 昨今、市民の間で、行政サービスは現状のままでもいいから、財政の健全化を優先した方がいいという意見を伺う。私も、何としても今の時点で財政は立て直しておくべきと考えている。

そこで、羽生市の財政の立て直しが、現時点でどこまで

進んだのか。また、その判断基準を、私は公債費比率の数値と考えているが、県下の平均値まで引き下げるには、どういうことをやるべきか伺う。

・答弁(企画財政部長)

羽生市は、平成十五年度より財政の立て直しを行っている。具体的には、市税徴収部

門の強化、報酬や給与のカット、事務事業の見直し、手数料の見直しなどであるが、国の三位一体の改革の下では、思うような改善が図れないのが現状といえる。

今、全国の各市町村では、財政健全化のための計画が立てられている。その目標の一つに、財政調整基金残高の確保がある。これは、不時の支出増等に備え、財源に余裕のある年度に積み立てをすることである。その望ましい残高は、標準財政規模の一

割程度といわれ、当市の場合、十億円程度が見込まれる。現在高三億三千万円に対し、当面、五億円程度の積み立てを目標としたい。

そしてもう一つの指標が、ご指摘の公債費に関するものである。公債費比率は、地方債発行規模の妥当性を判断する指標で、地方債の元利償還金の標準財政規模に対する割合である。

羽生市の数値が県平均を大きく上回っているのは、今までの財政運営が、市債借り入

れに大きく依存してきたことによる。

今後、集中改革プラン等を踏まえ、五年程度を目標に引き下げに向け努力しなければならぬが、課題となっている公共施設の維持管理、改修等を考えると、十年程度に目標を変更せざるをえないと考えている。

## その他の質問

・教育について